

# 小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2023年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業270社
3. 内 訳：製造業60、卸売業27、小売業45、運輸・倉庫業20、観光業46  
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：170社（62.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

## 概 況

### 一 業況、売上はプラスで推移したが、採算は低調。各種経費の上昇、従業員不足が課題 前年同期（2022年1月～3月）と比べた今期（2023年1月～3月）の状況 今期と比べた来期（2023年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは19.6で、前年同期と比べ52.7ポイント上昇し、プラスに転じました。業況は3期連続、売上は4期連続のプラス水準で推移しました。採算は大幅に上昇したものの、マイナス水準での推移が続いています。卸売業、小売業、運輸・倉庫業では業況DI、売上DI、採算DI全てが大幅に上昇し、プラスに転じましたが、製造業と建設業はやや低調に推移しました。前期に引き続き、原材料価格や燃料費の高騰、経済活動や人流の増加に伴う従業員不足が課題です。

業種別業況DIは、製造業が同20.0ポイント上昇の▲13.3となりました。売上DIが大幅に上昇し、プラスに転じましたが、採算DIはマイナス水準で推移しました。食料品では6割超の企業で従業員が不足し、プラスチックでは6割超の企業で採算が悪化しました。卸売業は同62.3ポイント上昇の27.3となりました。食料品の約7割の企業で業況が好転、売上が増加しました。小売業は同53.1ポイント上昇の9.1となりました。全ての大型店、自動車小売で仕入単価が上昇しました。運輸・倉庫業は同78.7ポイント上昇の37.5となりました。道路旅客運送の8割、道路貨物運送の7割の企業で売上が増加しましたが、道路旅客運送では全社で従業員が不足しています。倉庫の売上DIはプラスに転じましたが、道路旅客運送や道路貨物運送と比べると低調に推移しました。観光業は同108.5ポイント上昇の66.6となりました。採算DIはプラスに転じ、売上DIはプラス幅が大幅に増加しました。9割超の企業で売上が増加し、外国人客数DIが大幅に上昇したものの、ほぼ全ての企業で仕入単価が上昇し、約半数の企業で従業員が不足しました。サービス業は同35.1ポイント上昇の14.3となりました。全ての飲食店で売上が増加しましたが、6割強の企業で従業員が不足しています。建設業は同11.0ポイント上昇の▲4.4となり、前期のプラス水準からマイナス水準に移行しました。一般土木工事業と設備工事業で、従業員不足の傾向が顕著に表れています。

来期の業況判断DIは15.8で、好転傾向が続くと予想しています。夏の観光需要の高まりや新型コロナウイルスの沈静化、経済活動の回復による売上の増加が期待される一方で、仕入単価や燃料費の上昇により採算の確保が難しい、従業員不足が続くといった課題が予想されています。

業況、売上、採算

今期（2023.1～3）の業況判断DIは19.6で、前年同期（2022.1～3）と比べ52.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

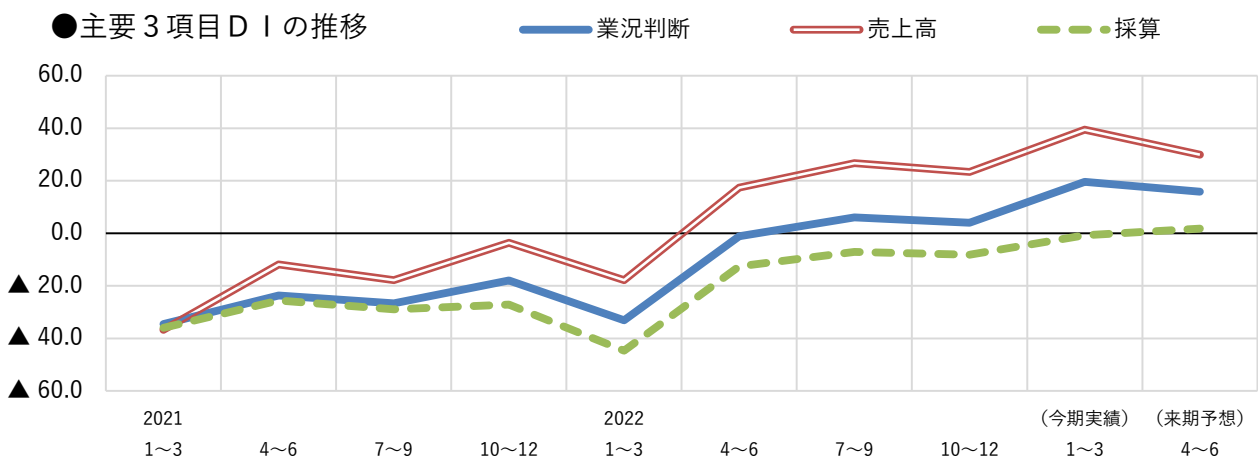
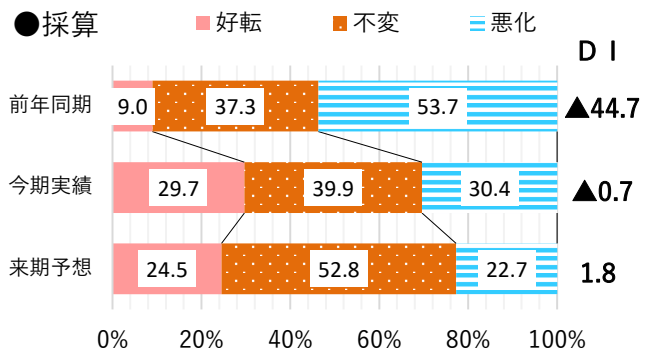
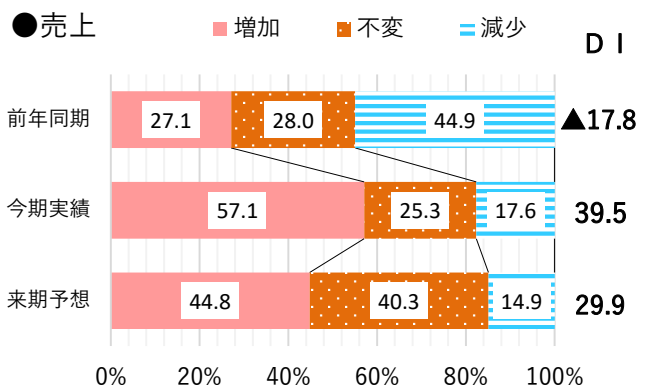
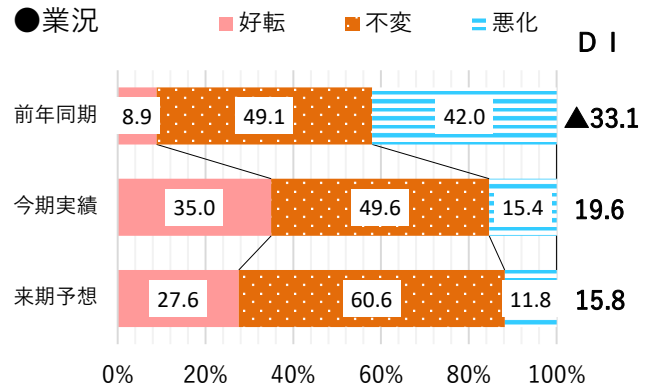
来期（2023.4～6）は、業況の好転傾向が続くと予想しています。

今期の売上DIは39.5で、前年同期と比べ57.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が続くと予想しています。

今期の採算DIは▲0.7で、前年同期と比べ44.0ポイント上昇しました。

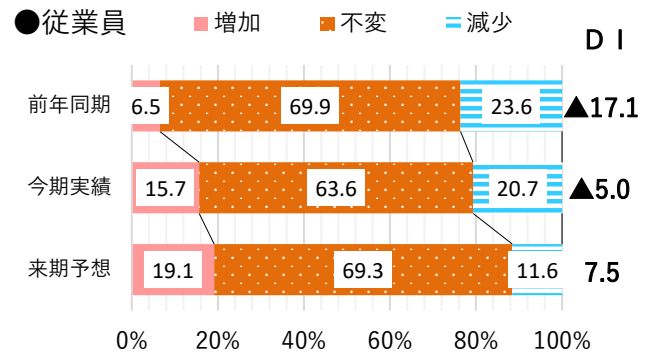
来期は、採算がプラスに転じると予想しています。



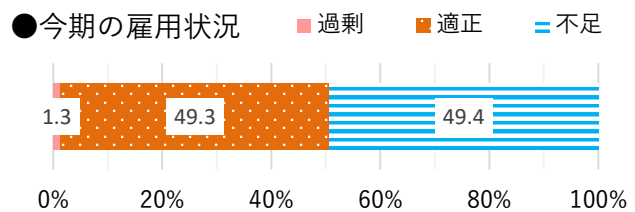
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.0で、前年同期と比べ12.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は1.3%、適正であると回答した企業の割合は49.3%、不足していると回答した企業の割合は49.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、40.5%を占めました。

回答全体では、49.4%が適正規模の従業員を確保できていると回答しましたが、ほぼ同じ割合の48.8%は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	2
	適正	11
	不足	14
不変だった	過剰	0
	適正	69
	不足	38
減少した	過剰	1
	適正	4
	不足	31

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは1.4で、前年同期と比べ19.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。

新規設備投資の動向では、回答のあった170社の34.7%にあたる59社が実施、前年同期と比べ7.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、「O A 機器」（同位）、2位が「建物」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期は、41.8%にあたる71社が設備投資を計画していると回答しています。

